



うきただより

～本校の教育目標～『学ぶ子 やさしい子 元気な子』

令和8年7月1日発行
令和8年度学校だより第4号
江戸川区立宇喜田小学校
校長 中田 伸代
在籍児童数 413名
☎ 03-3689-1291



「本物に触れる体験活動」で子供の学びを育てる

校長 中田 伸代

いよいよ7月、子供たちが楽しみにしている夏休みが近付いてきました。学校では、日々の授業や行事を通して、子供たちが「なぜだろう」「やってみたい」「もっと知りたい」と感じる学びを大切にしています。特に、実際に見たり、触れたり、聞いたり、体を動かしたりする「本物に触れる体験」は、子供の心と体、そして脳の発達にとって大きな意味をもっています。学校でも生き物自然に触れる活動やゲストティーチャーを招いた体験活動に数多く取り組んできました。

文部科学省委託調査「青少年の体験活動の推進に関する調査研究」報告書(令和3年3月)によると、小学生の頃に自然体験、社会体験、文化的体験、読書、お手伝いなどを多く経験した子供は、高校生になった時に、自尊感情、外向性、精神的な回復力、さらに「勉強や授業が楽しい」と感じる意識が高くなる傾向が見られました。つまり、幼い頃や小学生の時期に積み重ねた豊かな体験は、その場限りの思い出にとどまらず、その後の学びに向かう力や、粘り強く取り組む力の土台になり、学力向上にもつながることが示されています。

また、国立青少年教育振興機構等の調査研究でも、自然体験や生活体験、文化芸術体験が豊富な子供ほど、自己肯定感や自立的な行動習慣、探究する力が高い傾向にあることが報告されています。子供は、教科書や映像から知識を得るだけでなく、川の水の冷たさ、土のにおい、虫の動き、星空の広がり、地域の方との会話、家族の役に立てたうれしさなど、五感を通して世界を受け止めます。こうした直接体験が、言葉の意味を深く理解したり、知識と知識を結び付けたりする力を育てるのだと思います。

夏休みは、子供たちが学校生活とは少し違う時間の流れの中で、じっくりと本物に触れることのできる貴重な機会です。遠くへ出かける特別な体験だけが大切なわけではありません。近くの公園で昆虫を探す、夕方の空を観察する、図書館で興味のある本を選ぶ、家のお手伝いをする、地域の行事に参加する、博物館や美術館で本物の資料や作品を見る、祖父母や地域の方から昔の話を聞く。こうした身近な体験の一つ一つが、子供の心を動かし、考える力を育てます。ぜひお子さんと素敵な時間を過ごしていただけたらと思います。

1学期は大変お世話になりました。少し早いですが、ご家族で 良い夏休みをお迎えください。

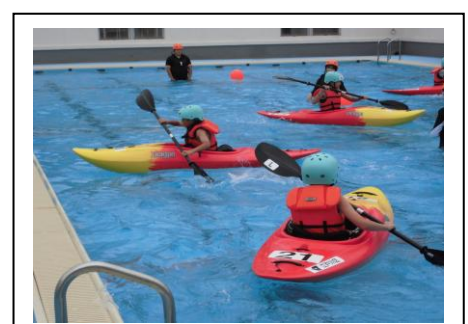
6月の学校公開には多数の地域・保護者の皆様にご来校いただきましてありがとうございました。授業内容についてたくさんの温かいご感想をいただきましたこと、教職員一同大変励みになりました。また引き渡し訓練では、校内事情でテトル配信が遅れ、ご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。台風6号が到来した朝、区内のアクセスが集中して、HPのサーバーがダウンしたように、今後も緊急時に学校からの配信などができないことも考えられます。緊急時の対応については、「保護者会全体会資料」に明記いたしました。後日配布いたしますので、必ずご確認いただき、ご理解とご協力いただければと思います。学校アンケートへのご協力もありがとうございます。いただいたご意見を踏まえて、今後もより良い教育活動に努めて参ります。



「働く消防写生会」



「ポニー教室」



「カヌー教室」(中田撮影)